

I 実践事例

増穂中学校 第3学年 道徳科学習指導案

日 時 令和5年11月10日（金）5校時
場 所 増穂中学校 体育館
対 象 第3学年生徒117名
指導者 深澤 宏彰

1 主題名 いのちについて考える D-（19）生命の尊さ

2 教材名 「がんを体験して～中学生へのメッセージ～」

3 本時のねらい

がん体験者の話を聞き、自分自身に置き換えたり、仲間との交流をしたりする学習を通して、命あるものは互いに支え合ったり、生かされたりしていることに気付き、自らの生命の大切さを深く自覚させるとともに、自らの生命と他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

生命を尊ぶことは、かけがえのない生命をいとおしみ、自らもまた多くの生命によって生かされていることに素直に応えようとする心の現れと言える。連続性や有限性といった生物的・身体的側面だけでなく、多くの人との関わりの中で生きているという、社会的側面からも捉えさせていくことが大切である。そして、生命あるものは互いに支え合って生き、生かされていることに感謝することにも気付くことが必要である。

本時では、保健体育科（保健分野）の授業で行ったがんに関わる学習も踏まえつつ、外部講師の話をお聴くことにより、自らの生命の大切さを深く自覚するとともに、互いに支え合って生きていることに気付かせたい。また、外部講師や仲間などの多様な考えを交流することにより、生命とは何か、自他の生命を尊重していくためには何が大切かなどについて気付いたり、考えたりする機会としたい。そして、自分の考えや意見を伝えたり、相手の考えや意見を聴いたりしながら、どんな心や姿勢が必要なのか、何が大切なのかを互いに考えさせられるよう指導したいと考え、本主題を設定した。

(2) ねらいにかかわる生徒の実態について

仲間と協力したり、学習や学年の活動に前向きに取り組んだりすることができる、素直で真面目な117名の学年である。しかし、中にはさまざまな悩みを抱え、不登校の生徒や「死にたい」と口にしてしまう生徒など、生命を軽視したり、心身共に不安定な生徒がいたりするのも事実である。思春期という時期もあり、学年を重ねるごとに増えている傾向にある。

本時では、がんを患いながらも前向きに、そして懸命に生きている方を招き、その方々のお話を通して、感じたことや考えたことなどを踏まえて、これからの自分自身の生き方や家族や他者とのかわりにつなげていけるように指導していきたい。

(3) 教材について

本教材は、がんを患いながらも前向きに、そして懸命に生きている方の話を中心とした教材である。話を聴く中で、生命あるものは互いに支え合って生きること、生かされていることに気付かせたい。

また、その話を通して、「生き方」について自分で考えたり、仲間と意見を交流したりして、生きていく上で大切なことに気付かせたい。

5 校内研究との関連

本校では、「聴き合い、学び合う授業」を目指した2つの取り組みを行っている。

(1) 教育の専門家として育ち合う「同僚性 (collegiality)」の構築

(2) 指導と評価の一体化

この2つの柱に基づく研究は、増穂中学校の生徒全員に「学び」を保障するために「今どのような授業が必要なのか」(求められる授業)、「私たちはどのように教師としての能力・資質を向上させていけばいいのか」(教師の質の向上)、ということを追求するとともに、その授業を生徒たちがどのように内化・内省し、評価を行うもの(例えばOPPシートなど)に外化するののかということ教師が把握することによって自らの授業改善につなげていこうとする試みである。

この研究主題に迫るために、まず私たちは、生徒たちにとって『学び』が生まれる授業づくりのデザインが不可欠となる。

そこで、道徳の授業においては、自分で考える時間、仲間と考えを共有する時間を大切に、多様な考え方を知ること、道徳的な心情や実践意欲、態度の育成を目指していきたい。

6 指導計画 (全3時間)

	実施日	授業内容	備考
第1時	11月6日(月)	事前アンケート結果から ※がんの予防についての保健授業(復習・確認)	
第2時	11月10日(金)	がんを体験して～中学生へのメッセージ～ ※がん体験者からお話を聴き、それをもとに感じたり、考えたりする。	本時
第3時	11月13日(月)	がんを体験した方から聴いた話をみんなで共有し合おう ※3グループそれぞれのお話を聴いて感じたり、考えたりしたことをクラス事に共有し合う。	

○本事業は、3時間設定とした。

第1時は、指導者が中心となり、2年次で学習した「がんの予防」について、復習の授業を実施する。

第2時(本時)は、第1時を受けて、3名のがん体験者の講話による「道徳科」としての学びを得る授業を実施する。全学年117名(4クラス)を、各クラス3分割し、各外部講師から別々の部屋で講話を聴く形式とする。

第3時は、後日改めて各クラスで3つの講話内容を共有し、振り返りを実施する。

7 がん教育等外部講師連携支援事業について

当初は、2年生の保健分野の内容で「がんの予防」について学びを深めることを考えていたが、がん体験者である講師の方との打ち合わせを通して、講師の方々から生の深いお話を聴くことのできる機会をより大切にしたいということや、子供たちの考え方や生き方に繋がりたいという思いから、子供たちの心を育むことを重視し、「道徳科」の授業として実践をすすめることとした。

このようなことを踏まえ、「自らの命の大切さを深く自覚させるとともに、自らの命と他の生命を尊重しようとする道徳的実践意欲と態度を育てる。」ことを本時のねらいとして設定した。

そして、このねらいを実現するために、指導者が外部講師の方に対して「生徒に授業を通して何を考え、何を学んでほしいのか。」という意図をしっかりと伝え、そのために外部講師の方に「どのような視点で話をしていただくのか。」ということの綿密な打ち合わせを実施した。

また、3名の外部講師の講話をより効果的かつ有効的にするために、3名の外部講師の講話を3人で15分の予定を、1人15分の講話ができる時間を確保できるように、3箇所の部屋に分かれて実施することで、それぞれの講話をより深く聴くことのできる機会が生まれるように配慮した。

さらに、授業を構成する上で、1時間の中で講師の方々のお話を聴き、それを生徒同士が共有し、振り返ることは困難だと考え、前記のような指導計画を設定した。ただし、各外部講師が限られた時間の中で講話を実施するため、ある程度の授業の流れの共有が必要であると考え、以下に示すキーポイントを踏まえた内容や流れで講話を組み立ててもらえるよう工夫した。

キーポイントとなる内容や流れ・・・**約15分を目安**に話していただき、質疑応答を概ね20分とした。

【自己紹介】

- 名前と罹患したがんの種類を伝える。(複数ある場合はそれも含める)
- 罹患が分かった時の社会的状況を伝える。(仕事と告知、家族との関係、治療と生活)
- 生活習慣等が悪かったわけではないし、健康診断やがん検診なども受けていたのに告知を受け、愕然としたことなども組み入れる。

【治療について】

- 罹患したがんの治療方法を伝える。
- 治療決定での不安や動揺など、心の揺れなどを伝える。
- 「死」を身近に感じ、どのように対処しているのか理解してもらえそうな話をする。

【がん罹患をして気付いたこと】

- がん罹患したからこそ気付いた命の大切さや、周りの人のさりげない配慮に気付くことができるようになった感情の推移などを伝える。
- 生きていることは、それだけで尊いと思うようになったことなど哲学的な心情等を伝える。

【質疑応答】

- 生徒は、話を聴きながらワークシートにメモを取る。(メモを取らずに聴くことに集中してもよい) その中で講師の方に対して質問等をする時間を作る。講師の方には**できるだけ多くの生徒が質問できる**ような配慮をお願いし、話を構成していただく。**時間は概ね20分くらいを予定**。

8 学習指導過程

過程	学習活動と主な発問 (◎中心発問 ○発問)	予想される生徒の発言	指導上の工夫・留意点
導入 5分	1 学習内容を確認する。 ○『命について考えよう』 ・授業者からの話を聴く。 2 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> 自分自身の生命の大切さと他者の生命への関わりについて考えよう。 </div>		<ul style="list-style-type: none"> ・がんを取り扱う際の配慮事項を、事前に周知する。 ・アンケートの結果に触れ、事前に復習として行った保健体育の学習内容を確認する。
展開 I 20分	3 がんを体験された方の話を聴き、考える。 ・3人のがん体験者から話を聴く。(15分) ※各クラス3グループに分かれ、それぞれの場所で聴く。	<ul style="list-style-type: none"> ・がん体験者の話を真剣にメモを取りながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講師の方々の話をコーディネートしたり、整理したりしながら理解させる。 ・特別支援の生徒中心に作業につまずきのある生徒に助言、支援をする。
展開 II 15分	4 自分自身に置き換えて考え、交流する。 ・生徒が抱いた疑問を出し、それをもとにがんを体験された方に答えていただく。 ※個人で考えたり、それを仲間で共有し合ったりする。 ⇒それを発表する (時間の様子で) ※生徒が考えている様子や共有している様子を踏まえて、外部講師の方が感じたことや思ったことを話していただき、それを聴いてさらに深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・話を聞いた中で、疑問に思ったこと、聞きたいことなど、質問をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 質問内容 ○がんを告知されたときの心境は？ ○周りの方々の様子はどんなでしたか？ ○闘病が始まって、大変だったことは？など </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループのリーダーにその場を仕切るときの支援やアドバイスをを行う。また、生徒の質問をもとにみんなで学びなどを深める時間をつくれるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 主体的な学び・対話的な学び </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えたことや思ったことを質問したり、それに対して考えたり、記述したり、発表したりできるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;"> 深い学び </div> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換をして、多様な考え方があることに気付かせ、共有し合い、考えを深めさせる。 ・全体を巡視しながら、意見の交流の様子を観察する。 (指導者及び講師) ・特別支援の生徒中心に作業につまずきのある生徒に助言、支援をする。

			<p>評価の視点①</p> <p>①講師の話や仲間との意見交流を通して、生命の大切さについて、さまざまな立場や状況を踏まえて考えることができているか。</p>
終末10分	<p>5. 本時の学習を振り返る。 ※今日の授業で考えたこと、学んだことを文章化する。</p> <p>○今日、みんなが命について考えたこと、わかったこと、思ったこと、学んだことを書いてみよう。</p> <p>○授業者からの話を聴く。</p>	<p>・自他の生命尊重について、考えたり、感じたりしたことを書く。</p>	<p>・病気とともに生きている人がいることを知り、その方々と意見のやりとりを通して、自他の生命尊重について、考えたり、感じたりしたことを書くよう伝える。</p> <p>評価の視点②</p> <p>自他の生命を尊重する事について、これまでの自分やこれからの自分の生き方につながることにについて考えることができているか。</p>

9 評価の視点

- ①講師の話や仲間との意見交流を通して、生命の大切さについて、さまざまな立場や状況を踏まえて考えることができているか。(対話の様子、発言、ワークシート)
- ②自他の生命を尊重する事について、これまでの自分やこれからの自分の生き方につながることにについて考えることができているか。(ワークシート)

10 その他

○事前指導

- ・がんと告知され闘病中の家族をもつ生徒がいるかという確認と、いた場合の配慮をしっかりとした上で、授業計画や本時の授業を進めていく。
- ・事前アンケートを実施し、その結果を踏まえて、がんについての復習の保健の授業を行う。

○事後指導

- ・次時、各グループで聴いたり、考えたりした内容を各クラスに持ち帰り、他のクラスメイトとの共有を行う時間を設定する。担任がコーディネートしながら、学びを深める時間にする。またそれを文章化する。
- ・終末で文章化したことを通信等で紹介し、学年・学校全体や教職員、保護者とも共有できるようにする。

道徳アンケート (※生徒に対し、授業の事前及び事後に答えてもらう)

3年 () 組 () 番 名前 ()

- 1 「がん」についてのイメージを単語で書いて下さい。いくつでも可。
※すべて埋めなくても良いです。

- 2 あなたの家族や大切な人が「がん」になったらどうしますか。どんな行動をとりますか。

※このアンケートについては、本事業の事前・事後アンケートと一緒に、生徒に答えてもらう。

【第3時】※本時を終えて、各学級での情報や意見交流の時間の内容

学習指導過程

過程	学習活動と主な発問 (◎中心発問 ○発問)	予想される生徒の発言	指導上の工夫・留意点
導入 5分	<p>1 学習内容を確認する。 ○班の中で、がん体験者から聴いた話について、共有し合うことを伝える。</p> <p>2 本時のめあてを確認する。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・先日のがん体験者から話を聴いたときの生徒の活動の様子に触れ、担任が話を聴いて感じたことを話す。
	◎『いのちの尊さ』について、考えを深めよう。		
			<ul style="list-style-type: none"> ・本時のめあてを共有し、学習の見通しを持たせる。
展開 25分	<p>3 がんを体験された方の話を班内で共有し合う。 ○班の中で1人ずつ、がん体験者の方から聴いた話を伝え合う。(25分)</p> <p>①話の内容 ②話を聴いて、感じたこと、考えたこと。 ③話してくれた仲間に対する質問や話をしてくれた仲間に全員が感想やコメントを言う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の話を真剣にメモを取りながら聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・班長が司会を務め、みんなの意見を出させたり、引き出させたりする。 ・班長に話合いの進行について支援やアドバイスをを行う。 ・仲間の話に対して、必ず一言コメントを言うように促す。 ・全体を巡視しながら、意見の交流の様子を観察する。 (指導者及び講師) ・特別支援の生徒中心に作業につまずきのある生徒に助言、支援をする。
終末 15分	<p>4 仲間の話から得られた新しい情報などを踏まえて、自分自身の考えや行動について深める。</p> <p>がん体験者や仲間の話を聴いて、あなたは『いのちの尊さ』についてどのように考えますか？ ※今日の授業で考えたこと、学んだことを文章化する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自他の生命尊重について、考えたり、感じたりしたことを書く。 	<p>深い学び</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換をして、多様な考え方があることに気付かせ、共有し合い、考えを深めさせる場面を設定する。 ・自他の生命尊重について、考えたり、感じたりしたことを書くよう伝える。

◎ 「いのちの尊さ」についてどのように考えますか？【生徒の意見 ※一部抜粋】

- ・人はいつ何が起こるか分からないです。だからこそ、何気ない日常を大切にすべきだと思う。私はこの命がある限り、この人生を楽しみ、時にはつらいことも経験して、よい人生にしたい。
- ・いのちは一つしかないものだから大切にしていかなければならないと思った。元気に過ごしているのがあたりまえになっているけど、そうではない人もいるから今の生活を大切にしていこうと思った。
- ・命は永久じゃない、いつどこで何が起こるか分からない。だから、一分一秒を大切にしたい。また人の支えがあるからこそ、強く生きることができる。乗り越えることができる。命の大切さ、言葉の大切さ、すべてに意味のある大切さがある。
- ・今、生きて、学校に行き、友たちと話すことがいかに素晴らしいかを知った。病気になっても諦めないで生きるという「気」が大切。命は簡単になくなってしまふ。だから、周りを大事に、自分を大事に、今を楽しむべきなのだと考える。
- ・いつ何があるかわからないから、毎日を大切に生きなければいけないし、自分の命、大切な人の命を大切にしなければいけないと思う。どんなことがあっても、最後まで諦めず、命を無駄にはしていないと思う。
- ・1人ではいのちを保つことは難しいが、周りがいるから病気のこと前向きに考えられるし、周りがいて支え合っているから自分や他者のいのちは大切に守られていると思う。
- ・人には人の人生があつて、その1つ1つが大切なものだと思う。その人生ががんやその他の病気で危機になってしまったとき、自分一人で抱え込まないこと、そして、絶対に死なないという強い意志が大切だと知って、健康も大事だが、自分の強い意志で人生が変わっていくことに命の尊さを感じた。
- ・今、普通に生きているし、あまり「命」って考えたことがなかったけど、がんの人の体験を聴いて、がんも含め、病気は誰もがいつなるかわからないので、今を大切に、自分を大切にしたいと思った。あとどんな時も前向きに生きようと思った。
- ・「いのち」は何にも代えがたい大切なものだと考える。また、「いのち」は周りの支えがあつてのものなので、周りの人の力は生きる上でどんなに大切かがわかった。死んでしまったら何もかもおしまいだし、「いのち」は一つしか無いから大切にしていきたい。また、自分だけじゃなく、世界中の全員が同じだから、他人の命も大切にしたい。
- ・いのちはいつどのような形でなくなってしまうかわからないから、自分自身のために生活習慣を整えることも大切だけど、もし病気とかになつてしまったら、前向きに自信をもって生きることが大切だと思った。もし、自分ががんになつてしまつたり、周りの人がなつてしまつたりしたら、命を守るためにも明るい気持ちでポジティブに生きることが大切だと思った。
- ・「いのち」は自分の親がくれた自分のものだけではないものだと講師の話から思った。だから、どんなにつらくても絶望しても「諦めない」ことが生きることにつながっていくと思った。また応援し、支えてくれる人との出会いも大切にしたい。
- ・一度しかない人生で、しかも自分だけの命ではないことに気付くことが大切。支えてもらっているからこそ、生きるのを諦めない。それが命を大切にすることだと思う。
- ・「命」は限りあるものだからこそ、大切にしていきたいと思った。今、こうして怪我にも病気にもならず健康に生きていられることが奇跡なのだと改めてわかった。今生きているこの時間はもう二度と繰り返されることのないこれ以上ない素敵な贈り物だと感じた。今生きていることを当たり前だと思わないで、感謝しながら過ごしたい。何があつたとしても自分から命を絶つことがないようにしたい。

【第3時 ワークシート】

がんを体験して～中学生へのメッセージ～ 2

グループ【 】 ()組()番 名前()

今日のめあて

『仲間話を聞き、『いのちの尊さ』について考えを深めよう』

【話を聞きながらメモを取ろう】※聴くことに集中したい人はメモを取らなくてもいいよ。

【仲間からの話を聞き、共有しあう中で、感じたこと、考えたこと、深まったことなどを書こう】

【あなたは『いのちの尊さ』についてどのように考えますか？】

II 実践のまとめ

【生徒に対する事前・事後アンケート結果について】

質問 1 がんの学習の重要性について	実施前	実施後	増減
がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ（そう思う）	81.0%	94.3%	+13.3
がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ（そう思う）	84.0%	93.4%	+9.4
質問 2 がんという病気について	実施前	実施後	増減
がんは誰もがかかる可能性のある病気である（正しい）	99.0%	100.0%	+1.0
がんは進行すると、今まで通りの生活ができなくなったり命を失ったりすることがある（正しい）	95.3%	97.1%	+1.8
がんは日本人の死因の第2位である（誤り）	76.2%	90.8%	+14.6
たばこを吸わないこと、バランスよく食事をすること、適度な運動をすることなどによって、予防できるがんもある（正しい）	79.2%	96.2%	+17.0
早期発見すれば、がんは治りやすい（正しい）	97.2%	99.2%	+2.0
体の調子がいい場合は、定期的に検診を受けなくてもよい（誤り）	92.5%	95.3%	+2.8
がんの治療法には手術治療しかない（誤り）	84.5%	91.4%	+6.9
がんの痛みは我慢するしかない（誤り）	87.7%	89.6%	+1.9
質問 3 がんへの考えと共生社会について	実施前	実施後	増減
自分のがんにならないと思う（どちらかというそう思わない・そう思わない）	77.4%	85.7%	+8.3
将来、たばこは吸わないでいようと思う（そう思う）	79.2%	79.0%	-0.2
日頃から、バランスのよい食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	66.0%	82.9%	+16.9
がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う（そう思う）	54.7%	80.0%	+25.3
がんの治療方法はいくつかあるが、医師が決めるものである（そう思わない）	29.2%	60.4%	+31.2
がんになっても生活の質を高めることができる（そう思う）	22.6%	58.5%	+35.9
がんになっている人も過ごしやすい世の中にしたいたい（そう思う）	74.5%	90.6%	+16.1
がんと健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う（そう思う）	52.8%	76.4%	+23.6
家族や身近な人が健康であって欲しいと思う（そう思う）	93.4%	93.4%	±0.0
長生きをするために、健康な体づくりに取り組もうと思う（そう思う）	80.2%	84.9%	+4.7

○アンケート結果の考察

事前アンケートを行った時点で、小学校や中学校2年次での学習で「がん」について授業で取り組んでいたため、質問1「学習の重要性」や質問2「がんという病気について」は、高い水準で正しい理解や望ましい価値観を持っていることが見受けられた。一方で、質問3「がんへの考えと共生社会について」では、低い数値の項目もあったが、本事業の学習や外部講師の方のお話を聴く機会を通して、多くの項目において、事前と事後で大きな変容が見られた。

このことから、保健の授業による知識の定着も大切ではあるが、それだけでなく、生の声を聴くことでよりがんという病気の知識だけではなく、がんとの共生について考えたり、実感したりすることができるようになったのではないだろうか。また、それが自分自身の考え方や生活に結びついたり、身の回りの方々とのかかわりについても考えたりすることに繋がったのではないかと推測される。

「がん教育推進校授業公開」アンケート結果（増穂中学校）

対象者 一般参加者 22名

達成できた← 参考になった← →達成できなかった
→参考にならなかった

	5	4	3	2	1
本時のねらいは達成できたか	9	9	4	0	0
外部講師の活用は効果的だったか	2	1	0	0	0
学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業は参考になったか	1	2	8	2	0

【参観者アンケートの記述や授業後の研究討議での内容について】

○本時のねらいは達成できたか

- ・生徒は真剣に話を聞き反応していたため、達成できた。
- ・生徒の聞く姿勢と質問内容から意欲を感じたから。
- ・講話を丁寧に聞き取り、自分自身の事として考えている様子が伺えた。
- ・参観した会場は生徒の質問が盛んで感想の発表はなかったため、ねらいの達成については分かりかねますが、講師の方のお話を真剣に聞き、様々な視点で質問していたため「命」について考えることができていたのだろうと思います。
- ・外部講師の話により、命の大切さについて考える機会となったと思います。教室に戻り、生徒がどのようなまとめをして自分自身につなげていったのか気になりました。
- ・大変落ち着いた中で貴重な実体験の講話を聴き、質問や感想が出されていた。ただ、参加させていただいた会場が体育館だったため声が聞き取りにくかったことと、授業時間内で終わらなかった部分の子供たちの感想も聞きたかったため、このようにさせていただきました。
- ・生徒が真剣に聞いている姿が見られた。
- ・講師の話の内容がねらいに沿っていた。
- ・真剣に話を聴いており、質問もしながらさらに考えを深めていたから。
- ・生徒が積極的に意見を交流し、考えを深めていた。
- ・実体験の話は子供たちにリアルな情報を伝えられると思ったから。
- ・生徒自身が命の大切さや、生きていくための気持ちをどう保つべきかを講師から学んでいた。講師の方が何度も「心のコントロール」とおっしゃっていた。また、「自分の命ではない。自分の親がくれた命」だからとおっしゃっていた。子供たちは「生命の尊重」に触れ、考えさせられたと思う。
- ・がん患者の方の話を聞き、自分自身に置き換えて、仲間と交流することができていたと思います。

○外部講師の活用は効果的だったか

- ・生の声を聞いたことで子供たちにはとても響いた。
- ・体験者の言葉は生徒にとって心に響いていた。
- ・講師の話が上手だった。
- ・実際の声を聞けることは、貴重なことだと思います。
- ・実際の体験者がお話しする内容は、やはりとてもインパクトのある内容だったため。
- ・当事者の実体験を聞くことはとても良かったと思います。

- ・やはりがんの罹患経験がある方からのお話は、生徒にとって命のあり方を考えるきっかけになると感じました。実際の経験や心情の変化などをお話いただき、がんをより身近なものと感じることができたと思います。また3人の方からお話いただくことで、一口にがんと言っても、一人ひとり捉え方や考え方は異なってくることを学ぶことができました。
- ・人に対するやさしさや思いやりの心の大切さの必要性を認識する機会となっていた。
- ・実際にがんを経験した方からのお話は、より「生きること」「命」についての思いが伝わると感じました。
- ・ご自身の経験を子供たちにわかりやすく話していただき、もし家族だったら、自分だったら、と考えさせられることが多かったと思う。講師の方には本当に感謝します。
- ・ご自分の体験をわかりやすく、時には生徒に確認しながらやさしくお話をしてくださったので、生徒の心にも響いたと思います。
- ・がん経験者（講師）の話は、とても重みがあり心に響くものがあった。また、思春期の子供たちへのメッセージもとても良かった。
- ・体験した方のリアルな声が聞けたのはよかった
- ・外部講師に実体験を聞くことで、自分に置き換えて考えることができると感じました。
- ・がん経験者の貴重な話に生徒たちは集中して話を聞いていたから。
- ・教師が一般的な知識を語るよりも、実際にがんを経験した外部講師の方の話を聞くことで、生徒にとってはリアルで深く考えられる内容になっていたと思う。
- ・当事者でしか分からない苦労や悩みを話してもらえた。また、生徒の純粋な疑問などを生の声で届けてもらえたことは今後の人生に大きく影響すると感じた。特に、心の面を全面におっしゃって下さったため本当に貴重なお話であった。
- ・がんを経験された方だからこその想いや考え方を知ることができ、とても貴重な時間だったと感じました。
- ・がん経験者にしか語れない想いを生徒たちが聞くことが出来ていたから。
- ・実体験をした方をお招きし、その人から話を聞くことが、何よりも効果的である。

○学校におけるがん教育をすすめるうえで、本日の授業は参考になったか

- ・実際に生の声をリアルタイムでお聞きすることは、当事者にはつらいかもしれないけれど大変貴重なことだと感じました。
- ・外部講師と連携していく事はとても有意義であると考えている。
- ・外部講師のお話は良かったのですが、生徒の反応が少しわからなかったところがあった。
- ・講師の方を招いてのがん教育はなかなかできていませんが、授業を参観し、本校の生徒たちにもがんを経験した方のお話を聞く機会を提供したいと感じました。授業の流れについても指導案等の資料で示していただいたため、今後の参考にさせていただきたいです。
- ・保健体育科以外においても外部講師によるがん教育の効果を知る機会となった。
- ・外部講師が子供たちに向けてどのような話をしてくださるのか、実際に聞くことができよかったです。グループを分けたのはどのような理由からか気になりました。
- ・学年主任の先生の導入から展開がスムーズでした。まとめの時間が少し見たかったです。
- ・外部講師の活用を見させていただき、有効なことが確認できました。
- ・がんを経験した方でなくては語れない言葉が多くあり、病気だけの捉えだけでなく、共生についての学びも大きかった。
- ・がん教育のねらいとは何かもう一度考えさせられました。恐怖をうえつけるのではなく、生徒が考えを深められるような活動にしたいと思いました。
- ・保健体育科と道徳科を横断的にからめた授業でよかった。どうしても、保健体育科のイメージが強いためとても参考になった。
- ・外部講師をどこに依頼するのか、どのような流れで授業を行うことが望ましいのか、わからなかったため、大変参考になりました。

○学校におけるがん教育をすすめるうえでの課題について

- ・専門的な話や保健体育科との授業の関わりについて。
- ・時間の確保。
- ・外部講師との連絡調整や話し合いなど大変なことだと思います。
- ・病気を経験した人にとっては、ナイーブな内容であるために今回のようなお話をしてくれる事はとてもありがたいと考える。しかし、外部講師が活用できない場合には、その手立てとしてショート動画を活用できると、道德の授業等にも利用できると考える。
- ・教育課程上の位置づけをどこにして実践していくか。
- ・家族（特に親）をがんで亡くした子供への配慮。
- ・病気としてのがんをおさえるとともに、今日の授業にあった自らの生命の大切さと、支え合って生かされていることに気付かせることの大切さ。
- ・家族にがん患者がいる生徒への配慮。
- ・外部講師への依頼、企画。
- ・管理職や、保健体育科のがん教育への理解（外部講師を招くメリット）がまだ浸透していないこと。
- ・小学校において、どのような内容のがん教育の授業を行うのが望ましいか、よくわかっていないため、学んでいきたい。
- ・時間の確保、他の職員に理解を広めることの難しさ。
- ・知識と生命の視点で授業を展開することが大切である。生命の部分で深い学びはどうするべきなのかを考えなければならない。

○その他（気付いたこと・感想）

- ・講師の方のお話や主任の先生の思いが伝わってきました。生徒の感想や思いをもう少し聞けたり、交流できたりすると良かったです。また、私自身現在実父ががんと闘っているなかで、改めて父のつらい気持ちを吐き出せる場があるだろうか？と振り返りました。当事者がいる家庭や生徒には、どのような配慮をしたのかお聞きしたいです。第3時でもどんなことが出されるのか知りたいと思いました。体育館でしたので、生徒の勇氣ある発言が聞き取りにくくて残念でした。
- ・グループワークなども取り入れると、生徒たちが主体的に考える場面をつくれたのかもしれない。しかし、今回のような学習の流れもとても良かったと思う。
- ・生徒の爽やかな挨拶や会場案内など、温かく迎えていただき、嬉しく思いました。授業を公開するにあたり、様々なご準備や打ち合わせを重ねられたと思います。今日の学びを今後の職務に活かし、目の前の生徒たちに還元していきたいと思います。
- ・授業実践までの準備や講師との打ち合わせ本当にお疲れ様でした。保健体育科以外でのがん教育の実践事例を見る良い機会になりました。
- ・外部講師を活用してのがん教育の実際を見ることができ、勉強になりました。生徒からもたくさんの質問が出ていて、生徒にとっても考えるよい機会になっていると感じました。
- ・医療が進み、早期発見・早期治療で心配はないといえども、再発や有名人の死因などで耳にすると死を意識する病気だと思う。身近な人に患っている人がいたりすると余計に子供たちは不安になるかもしれない。そこを少しでも払拭できるように学ばせてあげることが大切だと思いました。
- ・講師の方が、「がん教育を受けていたら告知されたときに違ったかもしれない」と言われたので、がんについて学んでおく機会は必要だと感じました。
- ・生徒の質問が、学習を深めるためにとても大切だったと感じた。質問はあらかじめ用意されていたのか？同じ生徒が発言していたようだったが。最後のまとめ（各クラスで行った）がどのように行われたのか？知りたかった。

- ・がん教育のねらいをもう一度確認したいと思いました。
- ・今回参加することができてとてもよかったです。がん患者さんからの「心のコントロール」や「絶対に生きる」という強い意志を生で聞けて大人でも心に響くお話でした。今回、3会場に分かれ、終わってしまったので、第3時のまとめの様子も見なかったなと思いました。

【増穂中学校におけるがん教育について】

○教科指導としての充実

- ・学習指導要領における生徒に教えるべき情報を正しく伝えることは大切である。また、その中で、それをいかに生徒の知識理解や深い学びに繋げていくかの工夫も必要である。
- ・「どうして?」「なぜ?」といった生徒を思考させる教材や課題の質を上げること、それに対して、仲間とともにいかに協働的に学ぶ環境を整えるかを大切にしていく。
- ・生徒たちの深い学びにつなげるために、知識の定着に加えて、探求・追求型の授業づくりを行っていく。
- ・自分の学習したこと、学びが深まったことを自分なりに（自分のことばで）表現する力や、他者に伝えることができる力、説明することができる力を付けさせるための授業改善を意識していく。

○学校教育活動の関連付け（外部とのかかわり）

- ・外部とのかかわりの大切さや重要性を教員間で共有することや、そのための教師側の意識づくり、授業づくり、授業改善等を積極的にしていくことを大切に考えていく。
- ・教師（保健体育科内、養護教諭）や他教科、地域との連携・協力を推進する。教科を横断したカリキュラム・マネジメントの視点で、生徒たちに多様な関わりや指導をしていく中で、教員同士の指導方法や連携方法の工夫を行っていく。
- ・外部講師や外部団体との連携を大切に、リアルタイムな情報等の共有をしていくことや、各教科や特別活動の中で積極的に授業を仕組んだり、生徒が学びを深められたりする場を作っていく。